

# ～集落ぐるみのイノシシ被害対策～

(取組主体名) 高館13・14区獣害対策協議会  
(所在地) 宮城県名取市高館



## ■ 組織のプロフィール

高館13・14区は名取市の最西部に位置し、集落は山あい  
に連なる地域で、住民の大部分は農業を営んでいる。

高館13・14区獣害対策協議会は地区住民で組織され、平  
成27年度に集落ぐるみの鳥獣被害対策モデル事業に取組み、  
以後、地域ぐるみで対策している。

## 1. 取組のきっかけ

- 平成24年頃からイノシシによる農林産物の被害が発生し、水田・畑等のほか、法面の掘り起こしなどの被害も多かった。
- 捕獲隊によるイノシシの駆除や、個人によるロープ等の柵設置を実施したが効果は見られなかった。
- 地域の集まりの場でイノシシ対策として地区全体で大規模防護柵を設置することを決め、平成27年度に鳥獣被害防止総合対策交付金を活用することになった。

## 2. 取組の内容と特徴

### (1) 取組内容

- 防護柵の設置に先立ち、専門家（合同会社東北野生動物保護管理センター）の指導により、イノシシの生態と能力、被害の事例、被害対策の研修を行うとともに、防護柵の設置経路の検討を行った。
- 地区の農地全体を囲う形で総延長14kmの防護柵を、地区住民の自力施工で設置した。設置後には、専門家とともに防護柵を点検し、適切な防護柵の維持管理について研修するとともに、地区住民による定期的な防護柵見回りを継続している。
- 防護柵の周囲で箱わな、くくりわなによりイノシシを捕獲している。

### (2) 取組成果

- 防護柵の設置により、地区の農作物被害が大幅に減少した。
- 防護柵の付近にわなを仕掛けることにより、イノシシの捕獲頭数が増加した。（平成26年度11頭→平成27年度18頭）
- 地域全体で被害対策に取り組むことにより、農業者だけではなく地区全体の農作物被害対策に対する意識が高まった。



専門家と防護柵の点検

## 3. 課題と今後の展望

- イノシシの侵入を防止するため、防護柵の見回りや修繕等維持管理の継続的な実施が課題。
- 防護柵の設置によりイノシシが移動し、他の地域で被害が発生しないよう、防護柵周辺での捕獲の更なる推進と、周りの地区での緩衝帯設置等予防的対策の実施が必要。